

様式1 令和3年度 宇陀市立 菟田野中学校 学校自己評価書

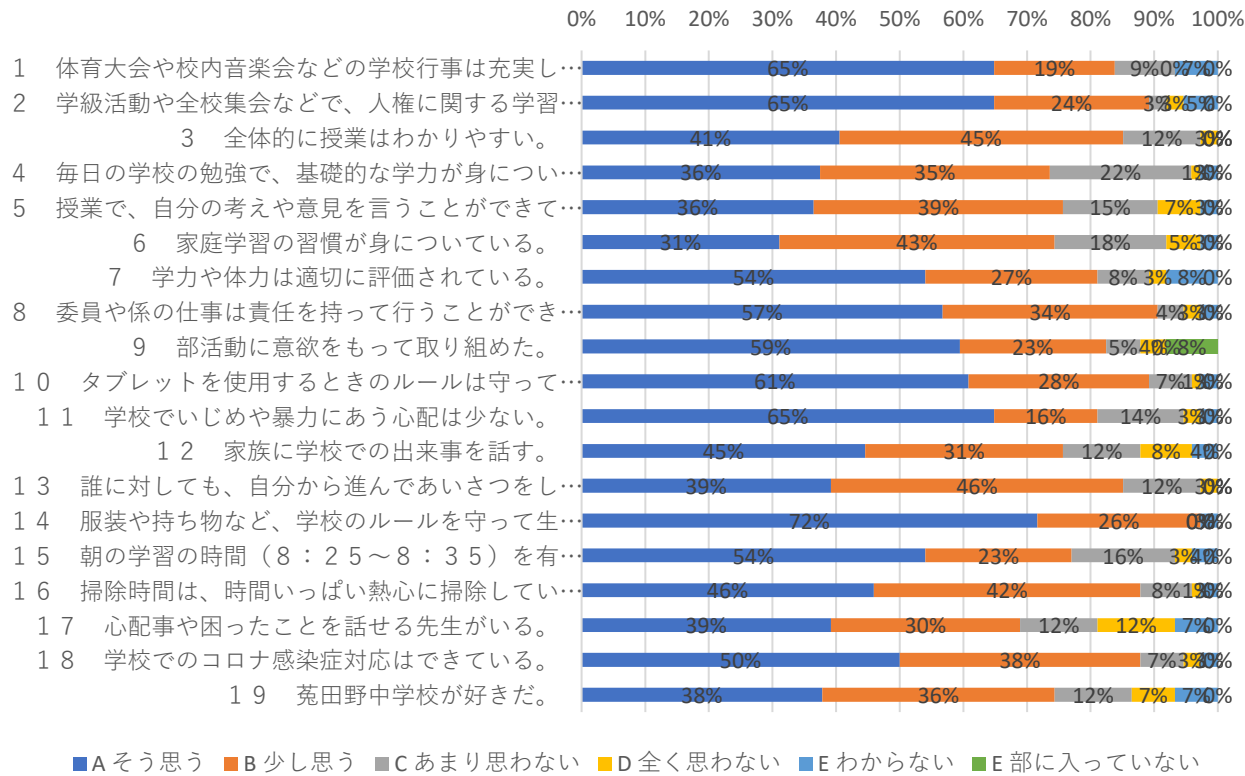
教育目標		人権尊重の精神を基に、確かな学力・豊かな心・健やかな体で未来に力強く生きる生徒の育成～新しい時代に生きる力と夢を育む～							
運営方針		教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学級経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。							
前年度からの課題		・基礎学力の徹底 ・学ぶ意欲の向上		・家庭学習習慣の確立		本年度重点目標 ○ 学力向上「主体的・対話的で深い学び」 ○ 質の高い集団づくり ○ 誇れる学校		○ 研究課題「ICT機器を活用した学習活動の充実」 ○ 全教職員で取り組む生徒指導・人権教育・特別支援教育 ○ 地域と共にある学校 ○ チーム力を発揮する学校	
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方針		
I 教育活動に関するもの	(1) 基礎学力の定着と向上	① 学習指導計画	指導計画(シラバス)の作成と実施状況	・新学習指導要領に基づくシラバスを作成して保護者に配布した。 ・学習意欲向上に向けて「ICT機器を活用した学習活動の充実」に学校全体で取り組んだ。 ・新しい教育課程に基づく評価について生徒に説明し保護者にも文書を配布。 ・授業のUD化は継続して実施した。 ・コロナ禍の中、オンラインで集会や授業配信。 ・家庭学習の習慣化のために「自主学習ノート」は全学年で継続して取り組んだが、家庭学習の定着にはまだ課題が残る。	B	・「シラバスを活用」保護者肯定的30%で今後の活用が課題。 ・「わかりやすい授業」生徒肯定的86%(昨年度比-8%)・保護者48%(わからない29%が増加)。 ・授業でのICT機器活用頻度が上がり、「授業での活用頻度2・3日に1回以上」が増加。「授業での活用が学習に効果的」生徒92.6%「家庭での学習に効果的」87.7% ・「適切に評価」肯定的生徒81%(1-13)保護者77%(昨年度比同)・「家庭での学習」ふだんの家庭学習時間1時間以上の生徒が、1年58% 2年30% 3年65%と低く、家庭学習が定着していない。・「基礎的な学力」生徒肯定的71%・「家庭学習の習慣」生徒肯定的74%・保護者63%「自分の考えや意見を言う」生徒肯定的75%	・「シラバス」の内容を活用できるものに工夫・使用方法の説明を工夫する。 ・「わかりやすい授業」「主体的・対話的で深い学び」の研究を進める。 ・評価内容・方法について研修を進める。 ・「自主学習ノート」の質の向上を回り意欲につなげたい。また、ICT機器を活用した「個に応じた深い学び」に向けて家庭学習の在り方を研究する。 ・携帯やゲームの時間が長い生徒が多く、生活の見直しや家庭への啓発が必要。		
		② 指導方法の工夫改善	学力向上に向けた指導の工夫(ICT機器を活用した学習活動等)とわかりやすい授業実践		A				
		③ 評価	新学習指導要領に基づく適切な評価		B				
		④ 家庭学習の指導	家庭学習の習慣化のための指導の工夫と実践		B				
	(2) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成	① 挨拶と掃除の定着	挨拶の習慣化と清掃活動の定着	・生徒会の挨拶運動(毎週水・金)。 ・各学年、活発な体験学習を行う。 1年:地域学習 福祉体験学習 2年:ふれあい体験・職場体験学習 3年:修学旅行・平和学習と進路に向けてなど ・生徒の企画運営による全校集会の実施。 ・体育大会で、生徒実行委員による企画、運営を行い、校内音楽会でも各学年が意欲的に取り組んだ。 ・9割の生徒が部活動に参加し熱心に取り組んだ。	A	・「自分から挨拶をしている」肯定的生徒85%(昨年度比-7)保護者82%(昨年度比-7) ・「掃除を熱心に行っている」肯定的生徒88%(昨年度比-11%) ・「委員や係の仕事積極的」肯定的生徒91%(昨年度比+8%) ・「学校行事が充実」肯定的生徒84%(昨年度比-11%) ・「部活動に意欲」肯定的生徒81%(昨年度比+2%) 生徒が主体的に活動する学校行事や集会が多く、生徒達は積極的に取り組んだ。「委員・係の仕事」や「部活動に意欲」については昨年度より向上している。	・挨拶と掃除を大切にすることは、今後も重視していく。 ・生徒会の活動が、生徒の主体性と個性を活かす活動となるよう進めていく。 ・コロナ禍の体制は今しばらく続くことが予想されるため、オンライン等うまく取り入れて活動の充実を図りたい。		
		② 学級・学年指導の充実	学級活動・道徳・総合的な学習の時間の指導の工夫と実践		A				
		③ 生徒会活動の活性化	生徒が主体となって意欲的に取り組む		A				
		④ 部活動の活性化	安全に、生徒が意欲的に取り組む		A				
	(3) 人権意識の育成	① 人権教育指導計画	確かな人権意識を身につけさせる指導計画	・人権会議の定例化を図り、生き方学習会など全校での取組を年3回以上実施。岡山県長島愛生園からのオンライン講話など。・人権フェスティバルへの取組。・1年生と福祉施設との協同活動やオンライン交流。・生徒の実態に合わせた題材と授業づくり。	A	・「人権に関する学習が充実」肯定的生徒89% ・「いじめや暴力におう心配が少ない」肯定的生徒81% ・「一人ひとりを大切に教育」肯定的保護者67%	・人権を大切に教育は本校の伝統である。今後も時代に即した教材研究を進める。 ・地域の方との交流について今後も進める。		
		② 指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材と、工夫ある授業実践		B				
	(4) 生徒指導	① 組織的な生徒指導	組織的な取組で規範意識を高める指導を行う	・生徒指導部会の定例化を図り、職員会議などで生徒について共通理解するための機会を定期的に設けた。 ・キャリアパスポートの実施。 ・スマホ・携帯安心出前講座・薬物乱用防止教室の実施。 ・スクリーニング会議の実施。生徒の状況を専門家であるスクールカウンセラーを交えて確認、年2回行う。	B	・「学校のルールを守っている」肯定的生徒98% ・「心配事を先生に話せる」肯定的生徒69% 保護者70% ・「PTA活動に積極的参加」肯定的保護者47%(昨年比-22) ・SCやSSWの先生と生徒や保護者とつないで、家庭訪問やカウンセリングが実施できた。 ・コロナ禍でPTA行事が中止、縮小となる中、夏休みの奉仕作業や古紙回収1回は実施でき、保護者の協力を得た。	・今後もルールやマナーを守る社会性を育てると共に、自律心を育てる指導を進める。 ・学校の情報を積極的に伝え、保護者や地域との信頼関係の構築に努める。 ・コロナ禍でのPTA活動になるが今後も協働して進めていく。		
		② 教育相談・生徒理解	教育相談の充実とSC(スクールカウンセラー)及びSSW(スクールソーシャルワーカー)との連携		A				
		③ 家庭との連携	家庭との連絡を密にし、連携を深める		B				
		④ 関係機関との連携	関係機関との連絡を密にし、連携を深める		A				
	(5) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	生徒の特性を理解し組織的に特別支援教育を進める	・特別支援教育部会の定例化を図り、指導の共通理解のもと、組織的に進めた。 ・個別の指導計画の作成した。 ・授業のユニバーサルデザイン化の取組を続けている。 ・コロナ禍のため、講師を招聘しての研修や特別支援学級保護者会の実施はできなかった。 ・生徒の様子について家庭と連携を図り、不登校対応や生徒支援に努めた。 ・市特別支援教育指導員の来校、年5回。	A	・毎月、配慮を要する生徒について全教員で共通理解の場を設けた。また、個別の指導計画を基に指導を行った。 ・定期テストの在り方を見直し、保護者と共通理解して改善し、個々の課題に応じた評価方法で実施することができた。 ・授業のユニバーサルデザイン化は、全教員で実施できるよう研修する必要がある。 ・コロナ禍にあり、特別支援学級保護者会を実施することはできなかった。 ・市特別支援教育指導員に、個々の生徒について授業観察し指導法の相談に応じてもらった。	・授業のユニバーサルデザイン化の視点を今後も大切にし、検討見直しを定期的に行う。 ・関係機関との連携を密にし、専門的な意見をききながら進める。		
		② 個別の指導計画	個別の指導計画を基にした指導の充実		B				
③ 家庭との連携		家庭との連絡を密にし、連携を深める	A						
④ 関係機関との連携		関係機関との連絡を密にし、連携を深める	A						

様式2 令和3年度 学校自己評価項目（学校経営）						学校名【 菟田野中学校 】		
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題・改善方策
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営	① 学校経営目標	学校経営目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育のグランドデザインを作成し、学校便りや学校ホームページ等で周知する。</li> <li>・教員の経験や能力を考慮した分掌配置を行う。</li> <li>・生徒指導や人権教育、特別支援教育、学力向上等各校務分掌の会議を、定期的実施し組織的に運営する。</li> <li>・職員会議の前に企画会議を設け、効率的な職員会議となるよう取り組んだ。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標をグランドデザインとして周知し、具体的な目標を掲げ取り組んだ。</li> <li>・各部会の定期開催を行い、情報共有等、組織的な運営を行うよう取り組んだ。</li> <li>・毎週月曜日を、ノー残業デーとした。</li> <li>・部活動の休業日を割り振り、活動時間や活動場所を工夫した。</li> <li>・学校行事における勤務時間の割り振り、フレックス制を導入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の周知や広報を更に丁寧に行う。</li> <li>・目標達成に向けた具体的な方法について協議し、達成度を確認しながら進めていく体制作りが必要。</li> <li>・各分掌を重ならないように担当する。また、定期的な会議の実施及び組織的な運営を行う。</li> <li>・働き方改革の視点を全教職員が共通理解し、業務の効率化を促進する。</li> </ul>
		② 校務分掌等の連携	校務分掌の適正化と連携を密に行う		B			
		③ 会議運営と働き方改革	定期的な開催と活性化		B			
	(2)研究・研修	① 研修の組織・計画・実施	組織的な運営と課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を年に、教科研究2回（県指導主事を招聘）、道徳3回全教員で研修した。</li> <li>・全教科において、「ICT機器を活用した学習活動の充実」に向けた取組を実施。（市指定研究）</li> <li>・県学力向上実践研究推進事業での取組継承。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や研修計画のもとに、研究授業5回、人権教育研修及びフィールドワークを実施した。</li> <li>・全教科でICT機器を活用した授業研究を進め、市の研修で発表しさまざまな意見や感想をもらった。</li> <li>・英語科では小中連携授業をオンラインで行った。これまで県学力向上事業で取り組んだ授業のUD化継続に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き「わかる授業」に向けた研究を進めていく。</li> <li>・ICT機器活用について、「個の学び」にどうつなげるかを研究指導していきたい。</li> <li>・次年度も引き続き予想されるコロナ禍で、様々な工夫をして全体での研修を継続する。</li> </ul>
		② 校内研修	実態に即したテーマと実施の工夫		B			
		③ 授業研究	活発な交流と成果を実践につなげる		A			
	(3)保健管理	① 学校保健安全計画	適切な学校保健安全計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全計画に従い、共通確認の下を進める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を学校全体で行い、スクールスタッフの協力を得て消毒作業等も確実に行った。</li> <li>・熱中症対応指針によりWBGTの測定を行う。</li> <li>・保健便りの発行。・SC（スクールカウンセラー）月1回、SSW（ソーシャルワーカー）月2回来校。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対応及び感染症の予防に努めた。生徒への指導も繰り返し行った。「学校でのコロナ感染症対応」肯定的生徒88% 保護者71%</li> <li>・アレルギー対応等、繰り返し確認を行い、対応の統一を図った。</li> <li>・校内でのスクリーニング会議の実施で、専門家の意見の下、全体で生徒の実情を見直す機会もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策として、丁寧な保健指導を今後も実施していく。</li> <li>・アレルギー対応の確認、研修は今後も定期的に行う。</li> <li>・生徒との関わりを大事にし、教員の情報共有を大切にする。</li> <li>・SC、SSC制度の有効な活用。</li> </ul>
		② 保健指導	保健指導の充実		A			
		③ 健康相談体制の整備	教育相談・SC・SSWとの連携強化		B			
	(4)保護者・地域との連携	① 学校情報の発信	学校ホームページ・学校便り・学年便り等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの更新を毎月行い、行事写真・学校便り・学校からのお知らせ等の広報を行った。</li> <li>・学校便り、学年学級便りの発行。</li> <li>・コロナ禍対応で、学期ごとの参観やオープンスクールは実施できなかったが、11月に校内音楽会とその後の授業参観は行えた。</li> <li>・1年生では地域の方の協力を得て地域学習を実施した。</li> <li>・小中全教員による小中教育連携会議を年2回行った。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校、学年便りや学校ホームページで様子がわかる」肯定的保護者66%。</li> <li>・「配信メールが役に立っている」肯定的保護者64%。</li> <li>・小中教育連携会議が定着し、9年間で目指す教育を、小中の全教員で話し合う体制ができています。今年は、「菟田野「つけたい力」カリキュラム」から各部門で課題を連携して実施することができた。英語科では小中連携授業をオンラインで行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の活動、取組の目指すもの等、より丁寧な広報に努める。</li> <li>・義務教育9年間を通した教育を考え、菟田野の子どもたちを育てる体制を作っていく。</li> </ul>
		② 学校(授業)公開	授業参観・オープンスクールの実施		B			
		③ 家庭・地域との連携	地域活動への参加・地域住民の参加		B			
		④ 校種間連携	小中の連携を進める		B			
	(5)教育環境の整備	① 施設設備の有効活用	学校施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館、格技室の地域への開放。</li> <li>・教材、教具を適正に管理し、計画的に使用。</li> <li>・校舎Wi-Fi環境の整備、一人一台タブレット及び家庭へのルーター貸し出し等で、ICT環境が整備され、授業で活用が進んだ。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあり、施設の開放ができない期間があった。</li> <li>・図書室の本を約300冊増やして整備し、改善を進めることができた。</li> <li>・WIFI環境が整い、学校でも家でも個人用タブレットで学習できる環境が整った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書推進に関わる図書室や「個の学び」に対応できる自習室等を行い、空き教室の利用につなげたい。</li> <li>・ICT機器の環境が整ったので、更に個の学びにつながる計画的かつ有効な活用に努める。</li> </ul>
		② 教材教具の整備	教材・教具の整備、活用状況		A			

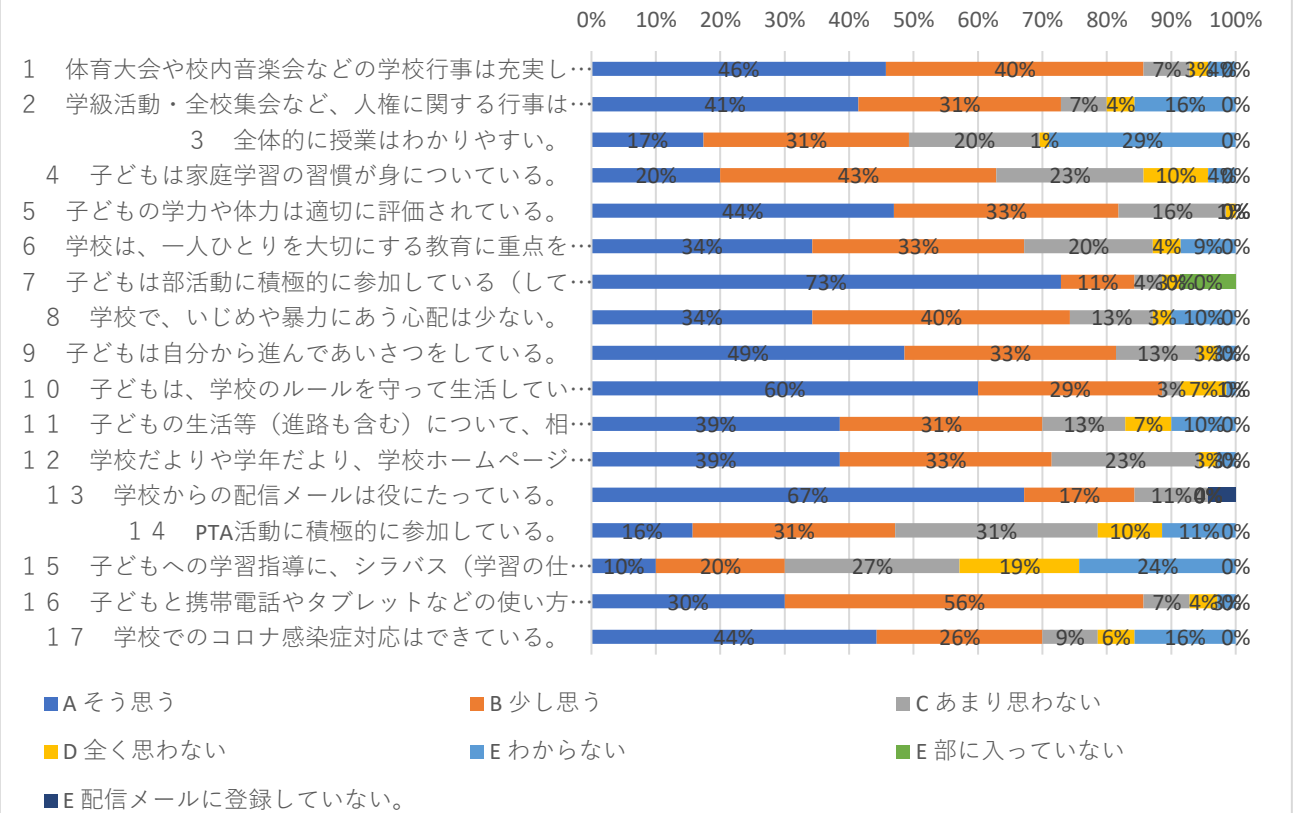
学校名	宇陀市立菟田野中学校
実施日	令和4年3月9日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について	取組の適切さについて	改善方策について
I 教育活動に関するもの	(1)基礎学力の定着と向上 (2)自主的・主体的に行動できる生徒の育成 (3)人権意識の育成 (4)生徒指導 (5)特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ノートは全学年で取り組んでいるが、家庭での学習時間が短い生徒が多く家庭学習の習慣が十分確立していない。</li> <li>・「いじめや暴力にあう心配はない」とする生徒や保護者の割合は教師のそれよりも多い。実態把握が必要では。</li> <li>・教育相談について、生徒や保護者も3割が否定的かわからないである。コロナ禍ではあるが、生徒や保護者との</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自主学習ノート」は全員毎日行うことになっているが、効果があまりないのであれば家庭での生活時間を書き出すなど、見直してはどうだろうか。</li> <li>・「いじめや暴力」について、教師の実態把握が適切か、見直しが必要。</li> <li>・認識にずれがあるので心配である。不登校生徒も多く出ているとのこと。生徒理解に努めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に一日の生活について見直したり、自分たちで話し合い刺激し合う機会を設けてはどうか。</li> <li>・学校便りに、勉強の仕方について啓発する記事を載せて保護者も一緒に考えるというのはどうか。親の意識を変えていくことは大事。</li> <li>・「明るい楽しい学校」にしていければ。</li> </ul>
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営 (2)研究研修 (3)保健管理 (4)保護者・地域との連携 (5)教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女生徒のタイツ着用について、保護者から要望があったが、生徒指導部がうまく機能せず、実施できていない。ピアスや茶髪等の課題についても保護者の理解を得られないことがある。</li> <li>・タブレット端末一人一台が実施された。タブレットの向こうには大きな世界が広がっている。更に活用を。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は、服装やピアスなど身体をさわることに注意する時代ではない。もっと教育の内容に時間をかけるべきだ。制服についても、自由になど大きな転換期にきているのでは。</li> <li>・生徒は与えられるばかりではいけない。処置する能力はあるが・・・となり、これからの時代に必要な力があるのに昔と変わらないではいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装や校則について、生徒や保護者に返して考えさせることも大事。朝、家を出るときに保護者にチェックしてもらおうというのはどうか。</li> <li>・制服も与えられてきた。LGBT等で制服の見直しを図るなら、自由にしてもよいのではないか。創造力や発想力などもっと鍛えていかななくてはならない。</li> </ul>
【その他学校に対する意見】 特になし				

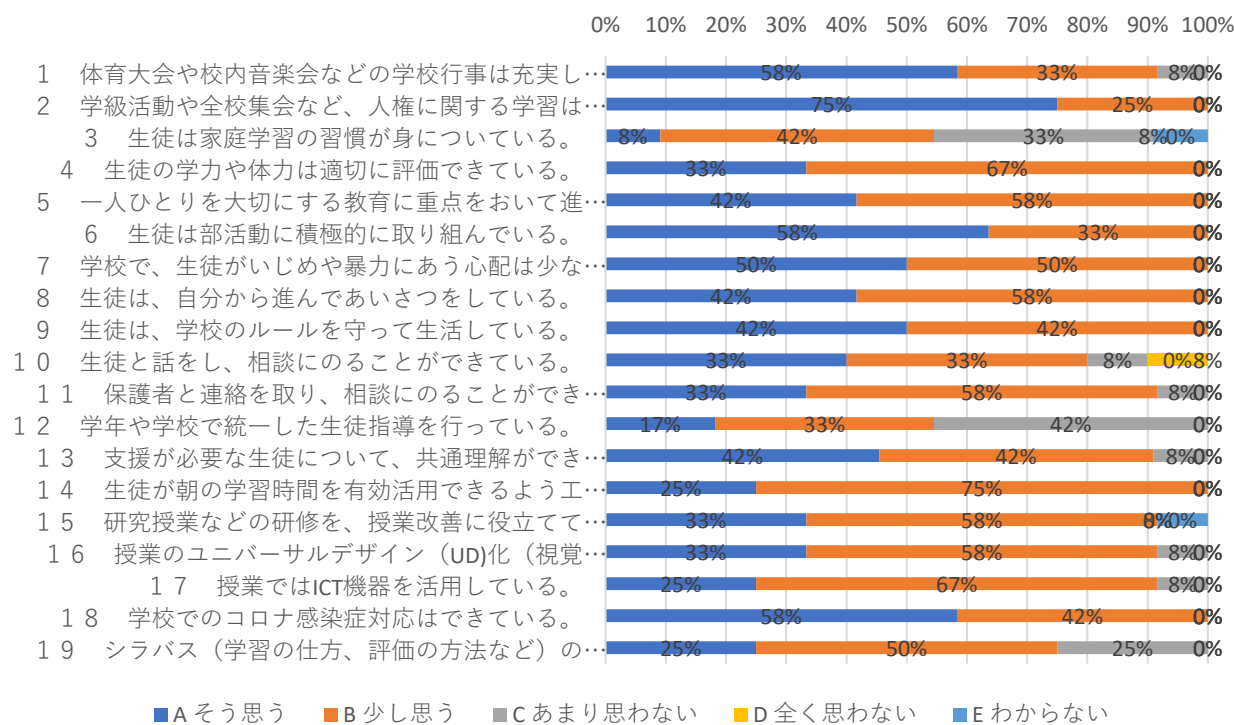
R3 学校評価アンケート結果（生徒）



R3 学校評価アンケート結果（保護者）



R3 学校評価アンケート結果（教職員）



〈アンケート結果より〉

・「学校行事の充実」「校則を守る」「部活動への積極的参加」「自分から進んで挨拶する」について、生徒・保護者・教職員とも肯定的な回答が多くあります。コロナ禍での体育大会や校内音楽会などを縮小しながらも、生徒主体の活動が行えたことがよかったと思います。

・生徒アンケートにおいて、「委員・係の仕事」「家族に学校の出来事を話す」が向上しています。学校ではやるべきことをきちんと行い、家庭においても生徒とのコミュニケーションを大事にいただいた結果だと思えます。

・「家庭学習の習慣」について、三者とも肯定的な回答は少なく、本校の課題です。年末に行った市の学習状況調査によると、携帯やゲームの時間が長く学習時間が短いことがわかりました。奈良県教育委員会の「家庭学習の手引き」によると、‘自分を磨く中学校1・2年生’の家庭学習時間のめやすは‘90分以上’、‘自己実現に向かう3年生’のめやすは‘120分以上’となっています。学校でも継続して指導していきますので、ご家庭でもお声かけをお願いします。更に「基礎学力の定着」「教育相談の充実」に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。